



\*\*2019年 1月改訂 (第6版、日局第17第1追補制定に伴う改訂)  
\*2017年 3月改訂

日本標準商品分類番号 873231	
	ブドウ糖注50%
承認番号	21700AMZ00073
薬価収載	2005年 6月
販売開始	1999年12月

貯 法：室温保存
使用期限：容器、外箱に表示
注 意：取扱い上の注意の項参照

\*日本薬局方ブドウ糖注射液(50w/v%)

処方箋医薬品<sup>注)</sup> **ブドウ糖注50%シリンジテルモ**  
Glucose Injection 50%

**【禁忌】(次の患者には投与しないこと)**

低張性脱水症の患者

[低張性脱水症が悪化するおそれがある.]

**【組成・性状】**

\*\*〈成分・分量〉

		1シリンジ20mL中
有効成分	精製ブドウ糖	10g

〈熱量〉

	1シリンジ20mL中
熱量	40kcal

〈性状〉

性状	無色澄明の液で、味は甘い。
pH	3.5~6.5
浸透圧比	約11 (生理食塩液に対する比)

**【効能又は効果】**

脱水症特に水欠乏時の水補給、循環虚脱、低血糖時の糖質補給、高カリウム血症、注射剤の溶解希釈剤、薬物・毒物中毒、心疾患(GIK療法)、肝疾患、その他非経口的に水・エネルギー補給を必要とする場合。

**【用法及び用量】**

水補給、薬物・毒物中毒、肝疾患には通常成人1回5%液500~1000mLを静脈内注射する。

循環虚脱、低血糖時の糖質補給、高カリウム血症、心疾患(GIK療法)、その他非経口的に水・エネルギー補給を必要とする場合には通常成人1回10~50%液20~500mLを静脈内注射する。

点滴静注する場合の速度は、ブドウ糖として0.5g/kg/hr以下とすること。

注射剤の溶解希釈には適量を用いる。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

(「操作方法」の項参照)

**【使用上の注意】**

**1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)**

(1)カリウム欠乏傾向のある患者<sup>1)</sup>

[低カリウム血症が誘発されるおそれがある.]

(2)糖尿病の患者

[高血糖が悪化又は誘発されるおそれがある.]

(3)尿崩症の患者

[水・電解質異常が悪化又は誘発されるおそれがある.]

(4)腎不全のある患者<sup>2), 3)</sup>

[腎不全病態が悪化するおそれがある.]

**2. 重要な基本的注意**

高濃度液の急激な投与中止により、低血糖を起こすおそれがある。

**3. 副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度については文献等を参考にした。

	頻度不明
大量・急速投与による障害	電解質喪失 <sup>4)</sup>

**4. 高齢者への投与**

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

注) 処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

## 5. 適用上の注意

### (1) 適用

本剤は、透析回路等の体外循環回路の高圧条件下で使用しないこと。

[高圧条件下では押子を斜めに押すおそれがある。押子を斜めに押すとガスケットが変形し薬液及び血液がガスケットの部分から漏出するおそれがある。]

### (2) 調製時

1) 他の医薬品と混合する場合には、医薬品相互の物理的・化学的変化に十分注意して行うこと。

2) ブリスター包装開封後は速やかに使用すること。

### (3) 投与経路

皮下大量投与により、血漿中から電解質が移動して循環不全を招くおそれがあるので、皮下投与しないこと。

### (4) 投与時

1) ゆっくり静脈内に投与すること。

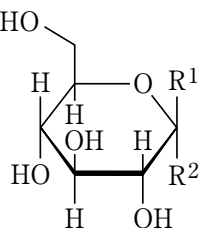
2) 高張液の投与は、血栓性静脈炎を起こすことがあるので、慎重に投与すること。

3) 血管痛があらわれた場合には、注射部位を変更すること。また、場合によっては投与を中止すること。

## 【有効成分に関する理化学的知見】

\*\*一般名：精製ブドウ糖 (Purified Glucose)

構造式：



$\alpha$ -D-グルコピラノース：R<sup>1</sup>=H, R<sup>2</sup>=OH

$\beta$ -D-グルコピラノース：R<sup>1</sup>=OH, R<sup>2</sup>=H

分子式：C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub>

分子量：180.16

\*\*性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、味は甘い。水に溶けやすく、メタノール又はエタノール (95) に溶けにくい。

## 【取扱い上の注意】

- 本剤はシリンジポンプでは使用しないこと。
- 包装フィルム表面に減圧によるへこみがない場合は、使用しないこと。
- ブリスター包装は使用時まで開封しないこと。
- ブリスター包装は開封口から静かに開けること。

- ブリスター包装から取り出す際、押子を持って無理に引き出さないこと。ガスケットが変形し、薬液が漏出するおそれがある。
- シリンジが破損するおそれがあるため、強い衝撃を避けること。
- シリンジに破損等の異常が認められるときは使用しないこと。
- シリンジ先端部のシールがはがれているときは使用しないこと。
- 内容液が漏れている場合や、内容液に混濁や浮遊物等の異常が認められるときは使用しないこと。
- 開封後の使用は1回限りとし、使用後の残液は容器とともに速やかに廃棄すること。
- 注入前後ともに押子を引かないこと。
- シリンジ及びホルダーの再滅菌・再使用はしないこと。
- 注射針等は針刺しに留意し、廃棄すること。

## 〈安定性試験〉

長期保存試験(室温, 37ヵ月)の結果, 通常の商品流通下において3年間安定であることが確認された<sup>5)</sup>。

## 【包装】

20mL×10本

## 【主要文献】

- 1) 越川昭三：輸液，2版，中外医学社，東京。1985：129-130。
- 2) Seedat Y. K.：Lancet ii. 1968：1166-1168。
- 3) Hutchings R. H. et al.：Ann Intern Med. 1966；65：275-285。
- 4) 松岡泰子，山内淳：臨床医。1997；23(12)：2227-2229。
- 5) テルモ株式会社：安定性試験（社内資料）

## 【文献請求先】

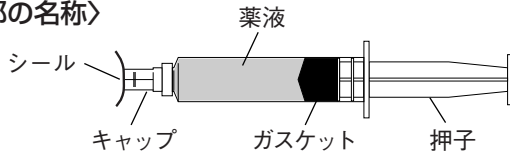
主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

テルモ株式会社 コールセンター  
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号  
TEL 0120-12-8195

## 【操作方法】

(本剤を輸液剤に添加する操作方法として、ホルダーを使用する方法と注射針を使用する方法がある。)

### 〈各部の名称〉

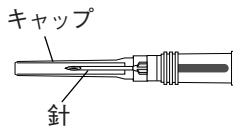


プレフィルドシリンジ

### 1. ホルダーを使用して輸液剤に混注する場合

**ホルダー** (プレフィルドシリンジホルダー：  
医療機器届出番号13B1X0010100006)

### 〈各部の名称〉



**1**

ホルダーのキャップが針に触れないように、まっすぐ外す。

**2**

ホルダーの針を輸液剤の混注口にゆっくりと、まっすぐ穿刺する。

**3**

シリンジ先端部のシールをはがし、ホルダーに嵌合させる。

注意：注射針等の使用にあたり、針刺しに留意すること。

**4**

薬液を注入する。

**5**

薬液注入後、シリンジ、ホルダーの順に外す。

### 2. 注射針を使用して輸液剤に混注する場合

**1**

キャップを矢印の方向に回して外す。

**2**

シリンジ先端部に直接手が触れないように注意し、注射針を接続する。

**3**

注射針を輸液剤の混注口にゆっくりと、まっすぐ穿刺し、薬液を注入する。

**4**

薬液注入後、シリンジを注射針とともに外す。



製造販売元：テルモ株式会社  
東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号